

浜嶋です。  
こんにちは。

朝5時、病室の窓から生駒山を眺めると昨日のように雲がかかっていた。また朝焼けが見られるかと期待したが、雲が輝いただけで茜色に輝く昨日の美しい景色にはならなかった。夕焼けも朝焼けも珍しい現象なのだと思った。美しい空の景色に出合ったときは、終わるまで眺めておくべきだ。

連休の病院は、外泊希望者が多くがらだ。私は4人部屋を1人で専有している。テレビを見ないと時間が進まない。もっぱら、本を読んだり、パソコンで仕事をしている。V S 隊のHPも作成した。今回の目玉はスキー行事の案内を作成することだった。先ほど送ることができて今回の目標は達成できた。

本題に移る。

4月24日に、NHKのあさイチプレミアムトークに、木村佳乃さんが登場した。私は、いつも明るく元気に振る舞う木村さんが好きだ。こんな質問があった。

「木村さんは、女優、歌手、司会者、タレントなど、なんでもやっていますがどんなふうに考えていますか」

木村佳乃は、「イッテQ」にも出演したり、トレンドイエングルの斎藤さんの真似をするなど、女優以外にも全力投球だ。

「私は祖母に、なんでも一生懸命やるのが大切だと教えられたので、すべてに全力を出している」という返答だった。

この考え方がすばらしい。自分は女優だと思っていない。何でもやるから、私はこれだと決めているわけでない。

私たちは、「自分は〇〇だ。そして、これもやっている」という考え方をしている。これは、間違っているのではないだろうか。うまい説明の方法だと目から鱗だった。木村佳乃さんには、両立とか3立、4立という発想はない。どれも一生懸命やるから、これが一番大事だという発想はない。すべてが大事なんですよね。

従来から、子供たちにとっては、勉強第一、クラブやボーイスカウトは2番目か3番目という考え方になる。指導者は、第一に家庭、次に仕事、そしてボーイスカウト活動という自分の活動の優先順位が決められている。これは、何か言い訳がましい。私は、すべてが大事だと思ってやってきた。どうでもいいことなんか無いのだ。順番なんか決められるわけがない。すべてが自分の人生なのに、どれかを切ることはできない。

有名大学の賞味期限は、40歳という記事を読んだ。40歳を過ぎると自分の人間性が

大事になる。どこの大学を卒業したからって何の役にも立たない。社会に入って獲得したさまざまなノウハウが勝って来る。この事実から将来設計のために今をどのように生きればいいかを考えた方がいい。文武両道という人がある。できる人は何をしてもできる。でも、能力におぼれて手を抜く先輩を見てきた。

なんでも一生懸命やっておいた方がいい。これからはそういう時代ではないかと思う。人に求められる能力は、幅が広がって何を準備しておけばいいかはわからない。観察力、調査能力、問題解決能力、リーダーシップ、おもいやり、感謝の心など、どんな仕事にも対応できる能力ではないか。V S 隊の大型通信塔の構築は、何を学ぶことができるのか、どんなノウハウを獲得できたのか。いろいろなことが考えられるが、間違いないことは、「よく考え、今を一生懸命生きたこと」が重要なのである。限られた時間を有効に使ったかを常に反省しながら、次にチャレンジしてほしい。だから、ボーイスカウト活動の特徴は、「おもしろくて一生懸命やる場があり、それをどこまでも一生懸命やるぞ」という精神を鍛えることができることにある。私は、こじつけかもしれないが、この考え方が今後の考え方だと信じられるように関わっていきたいと思う。